

大学生たちがいまを話し合う

—自殺者 3 万人の社会で生きる—



○日時：2015年3月28日（土曜日） 午後1時30分～4時

○会場：青山学院大学（青山キャンパス） 17号館8階17810教室

<http://www.aoyamabs.jp/access.html>

「大学生の自殺」がテーマではありません。

たしかに 15 歳から 20 代までの若年層の死因においても自殺は一位です（厚労省のデータでは 20 歳までは「不慮の事故」と併記されています）。

しかしかつて大学から希望をもって巣立った人たちも含め、現代日本では年間 3 万人の人たちが自殺しています。

病気や事故とは別の死の可能性としての自殺。

そんなことを言えば、人は大げさで自分とは関係のないことと思ってしまうかもしれません。

しかしはたしてそうなのでしょうか。

「自殺」という極端な例から、いまを生きる大学生たちが何を考えるのでしょうか。

同世代も、異世代も互いがこの自殺者 3 万人の社会をどのように捉えるのか、それをどうするか、その関連状況をどう見るかから、「生きづらさ / 生きやすさ」、さらには「生きる」をみんなで話し合ってみませんか。

またこのような催しを続けていくために、皆さんの参加を呼びかけます。

【趣旨】

- 「自殺」を焦点にしつつ、その経路となる様々な社会問題に目を向け議論する。
- 大学生が社会の現状を主体的に話し合い、活動する場をつくる。
- 結論や成果にとらわれず、自由な企画を楽しむ（ここでの「自殺」と言うのは深刻なテーマですが、深刻さや不安に対して眉間にしわを寄せて話し合うばかりでは問題にのみこまれてしまうのではないのでしょうか）。

【プログラム】

- 映画『自殺者 1 万人を救う戦い』（52分）をみんなで観る。
- 映画を材料にした参加者の話し合い
- こうした問題に対して何ができるかを考える

【参加対象者】

大学生を中心に考えていますが、こうした問題に関心のある人であればだれでも歓迎です。

【主催】「大学生がいまを語り合う」フォーラム実行委員会（委員長：楠秀樹）

【事務局】コミュニティケア活動支援センター 参加申し込みはこちらに、メールしてください。comcare@nifty.com（担当：佐藤）